

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1073100446		
法人名	株式会社 ヴィラ		
事業所名	グループホームヴィラ		
所在地	群馬県邑楽郡邑楽町赤堀8		
自己評価作成日	令和5年11月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和6年1月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな景色が広がり生活環境として恵まれたホームです。家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう、寄り添い支援するように取り組んでおります。ホールフロアも利用者様に季節を感じていただくために季節にあった装飾をしており利用者様に季節感を味わって頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員がこれまでの経験を活かし、昨年11月、12月に2名の看取りを実施した。家族の希望に沿って面会にも応じ、利用者、家族は最期を迎えるまで充実した時間を過ごすことができた。また、職員も利用者者に寄った支援に取り組むことで成長することができた。今後、グループホームでの看取りは家族から求められる支援となり、グループホームの課題の一つとなる。終末期の利用者、家族支援に取り組む様子がうかがえた。また、水害地域に該当することから、利用者、職員の生命を守るため、職員がいずれかの訓練に参加できるよう毎月自主訓練を実施している。地域にある他施設との連携を図り、緊急災害時に備えることは、高齢者施設としての社会的責務を果たす取り組みといえる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り、会議時に読み上げスタッフ全員で共有を心掛けております。	法人ヴィラの基本理念があり、朝の申し送りの前に夜勤者が読上げ、共有している。特に支援方法等は当法人の理念に沿って支援するよう指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の福祉祭りには利用者様の作品を出品します。	コロナ禍で町主催の祭りも中止となり、地域との交流はないが、回覧板から地域の情報を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在活かされていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在取り組んでいることの報告、家族との意見交換をしています。	コロナ感染症が5類に移行し、隣接する施設と合同で対面で開催している。利用者状況やイベント状況等の報告、身体拘束に関する経過観察についても毎回報告し、話し合いの中で意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき交流を図っております。	管理者が認定調査に立会っている。利用者の状態変化に伴い、要介護認定の更新について家族から依頼があった場合は、管理者、ケアマネジャーが代行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いつでも自由に外に出られるようになっております。ベッドからの転落、乗り降りでの転倒の恐れのある方には柵、安全ベルト、就寝時のみ、つなぎ服を着用しています。	玄関は開錠している。車椅子の利用者の転倒防止のため安全ベルトを使用し、弄便行為がある利用者は夜間のみつなぎ服を着用している。スピーチロックについては管理者が注意喚起している。	安全ベルト、つなぎ服については介護計画に入れ、使用しない方法を試行していることや利用者の日頃の様子を家族に伝える取り組みをしてはどうか。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	皮下出血等に気をつけております。入浴時確認、発見時ケース記録に記入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を参考に定期的に話し合いを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに時間をかけて説明し理解していただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時要望意見などもらえるようにしています。	利用者からは居室のカーテンが気になる等、日常会話の中に意見や要望が出ている。また、面会時に家族から補聴器の話や食事についての話等があり、支援や運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議での意見を管理者が代表者に伝え話し合いをしています。	毎月第3木曜日に職員会議を開き、休みの職員も出席している。カンファレンスも兼ねており、モニタリングをしている。職員からは食事の形態等、支援に関する提案があり、その場で話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の話し合いを持ち管理者から意見を参考にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の生活の中で管理者が指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はレベルアップ研修参加していたが現在はこの研修がないため参加していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の望む生活、したいことを聞き取り安心して生活ができるように心がけております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテークからアセスメントの段階で家族と話し合いを重ね関係作りに務めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも説明し本人や家族に情報提供しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の思いに共感し共に支えあっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切にしながら日々の暮らしの中、情報交換し同じような思いで支援できることを伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に電話をかけたたり連絡できるような心がけています。	居室で自由に娘さんと携帯電話で話をしたり、短時間ではあるが玄関先で面会し、関係性の継続を支援したり、洗濯畳み、エプロン畳み、おしぼり巻き等家事の手伝いを続けることを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性を理解し利用者様が円滑に過ごせるよう心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が終了した家族において連絡があった時など臨時相談に応じております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションより本人の望んでいることを聞いております。意思疎通が困難な利用者様には家族から情報を得ています。	入居時に「どのように生活したいか」、「自宅でやっていたこと、できることは何か」を聞く中で利用者の思いや意向を推察し、把握に努め、家族の思いも踏まえて介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に本人、家族にお聞きし把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を一緒に過ごしながらか把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から利用者の思いを把握し反映できるようにいたします。カンファレンスでスタッフ全体で意見交換しています。	毎月担当職員がモニタリングをし、職員会議の中のカンファレンスで意見交換をしている。担当職員が作成した状況報告は3ヶ月ごとに家族に送っている。介護計画は3ヶ月に1回見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を作成しており毎日の情報を記録している。職員全員が把握できるように記入しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診付き添いやおやつなどの買い出しなど支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らせるように民生委員・区長との意見交換する機会を設けております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1ヶ月に2回佐野在宅診療所、県西在宅クリニック往診。定期的に採血を行っています。	かかりつけ医はどうするかを尋ね、協力医がいることを説明している。現在は全員が協力医の往診を受けている。夜間も対応してもらえる。歯科は必要に応じて協力医に訪問診療を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており利用者様の状態変化に応じた支援を行えるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを医療機関に提出し家族とも情報交換しながら退院支援に結びつけています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人ん状態について事業所としての対応のできることを家族に話し主治医の協力のもとターミナルケアに取り組んでいる。	昨年、協力医、訪問看護の協力を受け、家族の面会も支援しながら、実践の経験を活かし2名の看取りを実施した。家族には入居時、緊急時の他、段階的に説明し、意向の確認に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	I ユニットR元年10月25日救急救命講習に参加したがそれ以降なし。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自主的に避難訓練を毎月実施 夜間を想定した避難訓練を行っています。	年2回法定の避難訓練と毎月自主訓練を実施している。緊急時には地域の他施設と連携を図るための事前の交流や利用者の帰宅等を検討している。1年に2回非常食を入替え、土嚢を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりにあった声かけ、さりげない声かけで自尊心を傷つけない対応しております。	利用者にあった声かけや入室の際は必ず声をかけることを心がけている。利用者間の相性に配慮した席を設けている。好きな向きに座ったり、「一人がいい」という利用者の自由さを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝のティータイムは本人の希望の飲み物を提供しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを尊重して支援しております。できない人のみ支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服を選べなくなってきた人が多くなったため一緒に選ぶように支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいと希望するものができるだけ提供しております。(そうめん・赤飯・まぜご飯他)	食事は3食、業者から届いた食品を湯煎して提供している。誕生日には何が食べたいか希望を聴き、献立に反映させている。利用者が行事食としてのおはぎ作りやうどん打ちをすることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取、毎日記録用紙に記入しております。1人ひとりの体調管理をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は歯ブラシで行い介助が必要な人は声かけで支援をしております。入れ歯は毎夜洗浄剤に浸けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能に応じ見守りを見逃さず誘導、介助を行っております。排泄困難な方は定期的に支援しております。	自立者、おむつ使用者、夜間のみポータブルトイレを使用する利用者に対して、チェック表等に基づいて声かけや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックリストを作成し便秘がちな利用者様には水分を多くとってもらったり体操など行っています。必要に応じて主治医の指示通りに服薬しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週3日の入浴 月～土曜日まで実施しております。	入浴は月～土曜日の午前実施し、利用者の入浴日は週3回でほぼ決まっている。急に入りたいという申し出には対応し、寝る前がいいという利用者や異性介助になる場合は事前に説明している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方に合わせて自由に午睡しております。気持ちよく眠れるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が声かけしながら確認wチェックで内服介助をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみをお願いした時には感謝の言葉を伝えております。誕生日には本人の希望に添った食品を提供しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節にあったドライブなどを行っております。現在は行っていません。	コロナ感染症が5類に移行し、2ヶ月に1回短時間ではあるが、買い物に出かけている。帰宅願望がある利用者には「ちょっと外に行きましょう」とその都度対応し、畑の風景を見に行っている。	コロナ禍以前のような個別での外出、日中外出の機会を設ける取り組みをしてはいかがか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームでお金を使うことはほとんどありませんが、買い物をお願いする方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は書いて頂いております。電話も自由に掛けていただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に季節を感じて頂くため季節にあった装飾をしております。居心地よく過ごせるよう心がけております。	対面式のキッチンの前に共用空間が広がり、テーブル、テレビ等が置かれ、窓際にソファがあり寛ぎの場所になっている。また、周って歩ける廊下があり、利用者が自由に過ごせる空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置き自由に使用して頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族の意志を尊重し使い慣れたものを使用しております。	入居時に「使い慣れた物等、何でも持って来てください」と説明している。夫の写真、時計、寝具や衣装箱がある。パット類はカーテンで見えないよう工夫し、利用者の尊厳に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人ひとりの持っている力・機能を把握しそれぞれに応じた環境を提供しています。認知度が重い利用者様は夜間スタッフが直ぐに行ける居室を使用しております。		